

Title	柔軟性と整合性に着目したスキルの体系化方法の提案-国際会議準備業務の事例を中心に-
Sub Title	
Author	小河原玲子(Ogawara, Reiko) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1418号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1418

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	89728213	氏名	小河原 玲子
(論文題名)					
柔軟性と整合性に着目したスキルの体系化方法の提案 －国際会議準備業務の事例を中心に－					
(内容の要旨)					
<p>近年、ベテラン社員のスキルの重要性が、企業の知的資産として注目されている。しかし、社内での共有化を図る上で、スキルの内容を記述したマニュアルやデータベースは多く見られるものの、それらの情報が役立つ理由まで踏み込んだ体系化方法が確立しているとは言い難い。人材の流動化が進行する現在、その積極的な解決策が求められている。</p> <p>以上の問題意識から、本研究ではスキルを要する仕事の例として国際会議の事前準備業務を取り上げ、分析を行っている。このように、準備期間が長く、業務範囲が広いという特徴を持つ業務では、「柔軟性」と「整合性」を両立した仕事を行うスキルが不可欠だと考えられる。分析における基本的な考え方は、業務の終わりの状態として会議当日を設定し、そこで必要となるコト、モノ、ヒトという要素に着目している。それらの要素を「構成要素」と呼び、その内容を「スペック」、項目名を「スペック項目」と呼ぶ。そこで、会議当日に必要な構成要素を望ましいスペックで準備していくことを業務の目的と捉え、準備が進むにつれて各スペックが明示的あるいは潜在的に決定していく構造に着目し、その目的達成に役立つスキルの体系化方法を提案している。</p> <p>具体的な方法として、本研究では3種類の作業補助シートを提示している。第1に、作業・構成要素関連表では各作業と会議当日の状態の決定における関連を示している。第2に、スペック記入表では作業の進捗状況と整合性を確認することを目的としている。第3に、構成要素機能表では会議当日の状態を具体的に想定し、柔軟な発想を可能にする。これらのシートは、ベテラン社員が行う業務の背景にある構造的な考え方をフレームワークとして用いてシート化したものである。従って、取り上げた業務以外にも適用できる構造を持ち、応用範囲が広く、社員のスキルの向上と体系化に果たす役割は大きいと考えられる。</p>					